○コロナ禍における商店街等の販売促進に係る優良事例
〈網走中央商店街振興組合・株式会社まちなか網走（網走市）〉

■商店街の概要

網走中央商店街は昭和 44 年（1969 年）から「いつも夢と愛のまんなか」をキャッチフレーズに運営している４条通り商店街である。

平成元年（1989 年）には、アーケードも完成し、一般公募で「apt.4（アプトフォー）」と命名されました。その意味は「abashiri pastel town」の頭文字から、４は四季と住所の４条を表現している。

夏は野菜販売などを行うら「るあーと朝市（旧ラルズ跡地）」やビールパーティ、「網走神社祭」が行われ、秋には「七福神まつり」で多くの露店が並び大変な賑わいを見せている。また、冬には「ホワイトイルミネーション」や寒さの中で海産物やお肉を焼くなどして楽しめる屋台村などが開催されている。

〔網走中央商店街〕

■新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドや観光客の来訪が大きく減少し、地元の買い物客のみという状況が続いていたが、店舗兼住宅となっている商店が多数を占めており、諸経費を抑え１件も閉店することなくコロナ禍を乗り切ることができた。

■「七福神まつり」について

網走における「七福神まつり」は、昭和４年（1929 年）に市内の有志７名により社祠がそれぞれの箇所に建立され、年２回網走神社を起点として約３里の道程を市民が巡礼して回ったことが始まりと言われている。

以後この七福神巡礼は網走の年中行事となり、毎年約２００人の大人子供が旗を立て市内各所を練り歩き、大変活気のあるお祭りであったと言われている。

しかし、この「七福神まつり」も戦争のため実行困難となり、いつしか社祠も朽ち人々から忘れ去られてしまった。

その後、平成６年（1994 年）に網走中央商店街振興組合を中心に網走の伝統あるお祭りである「七福神まつり」を復活させ街の活性化に役立てようという計画が持ち上がり網走七福神まつりが復活した。

以後網走の中心商店街を舞台に、七福神巡りを復活させた七福神ウォークラリー、網走の特産物である「麦」を素材にした様々なイベント、網走の海、山の収穫を祝うイベントなどを中心としたお祭りへと発展し、現在では網走の年中行事となり多くの人に親しまれている。

〔七福神まつり〕

■イベントの実施効果

３年ぶりに「七福神まつり」の開催を決定し、徹底した感染対策により実施した結果、２日間で約１万 8,000 人もの来場者を記録した。

網走市の交流都市である山形県の天童市をはじめ、友好都市の神奈川県厚木市、沖縄県糸満市からも各自治体や物産協会協力のもと、名物やお土産などのブースを出店し、各地のうまいもの珍しいものを求めて来場者が列をつくり、大盛況となった。

〔七福神祭り〕

■まちなか交流プラザの運営

「まちなか交流プラザ」は市民の声を受け、商店街振興組合、網走市、網走商工会議所の３者によって設置され、休憩場所としてはもちろん、イートインスペースやトイレの提供など、商店街内での憩いの場所としての機能を持たせた多目的スペースとなっている。

また、市民の作品や行政によるパネル展など、交流プラザを活用した展示も実施している。

〔まちなか交流プラザ〕

■コワーキングスペース「ナシタ」

「ナシタ」は網走中央商店街にある、不思議な帽子がトレードマークのコワーキングスペース。リモートワークやワーケーションなどの場として使うことができる。

〔コワーキングスペース「ナシタ」〕

■現状と今後の展開

新型コロナウイルス感染症が５類へ移行するにあたり、当面は経済活動が急激に活発化することはないものとして見込んでおり、まずは、コロナ禍で疲弊した状況を踏まえ、これまでできていなかった行事や取組を復活させ、かつての活気を取り戻したうえで、改めて様々な取組を実施したいと考えている。

取材先　■網走中央商店街振興組合
網走市南４条西１丁目 まちなか交流プラザ内　TEL：0152-44-5546